

# 場の工夫が体育の学習意欲に及ぼす影響に関する研究

—小学校第1学年の実践に着目して—

紀 村 修 一\*

(2024年12月23日 受理)

## A Study on the Influence of Ingenuity in Place Setting on the Motivation to Learn Physical Education

—Focusing on the Practice for Children of the First Grade of Elementary School—

Shuichi KIMURA\*

The purpose of this study is to compare children's learning in a setting set up by the teacher before learning and in a setting devised by the teacher or children during or after learning according to children's actual conditions and wishes, and to gain knowledge about the relationship between ingenuity in place setting and children's motivation to learn physical education.

As a result of the practice of physical education for the first grade elementary school students, it became clear that children's ingenuity in place setting leads to an increase in their motivation to learn physical education.

It was also found that ingenuity in place setting includes not only what to do (the content of the place) but also where to do it (the place of the place).

**Keywords:** Physical activity 運動遊び, Motivation to learn physical education 体育の学習意欲, Early childhood children 幼児, The first grade elementary school students 小学校1年生

### 1. はじめに

本研究の目的は、学習前に教師が事前に設定した場と、子どもの実態や願いに応じて学習中または学習後に教師や子どもが工夫した場における子どもの学習の様子を比較し、場の工夫と体育の学習意欲との関連について知見を得ることである。

体育の授業を行う際、教師は様々な視点を複合的に検討しながら授業を組み立てる。視点とは、例えば、子どもや学級の実態、領域の特性、単元目標、指導計画、発問、学習形態、場の設定、板書計画、評価の観点などである。どれも欠かすことができない重要な視点であるが、鈴木（2016）は、子どもたちの学習効果や認知学習を促すために「体育学習の場合は、特に『場づくり』は大変重要である」と述べている<sup>1)</sup>。また、鈴木（2021）は、「体育の時間で、『ゲームのコートやルールがいつも同じでつまらない』とか『仲間の視線が気になって思いっきり活動できなくてつまらない』ということがあります。これは体育における『空間』のデザインの問題です」と指摘する<sup>2)</sup>。両者は、

---

\* 広島女学院大学人間生活学部児童教育学科准教授

学習効果や学習意欲との関連を示しながら「場づくり」や「空間のデザイン」という表現を用いて、子どもが学習する環境を意図的に工夫することの重要性について言及している点において一致している。そこで、本稿では、子どもが学習する場や空間などの環境を「場」、学習前に教師が事前に場を計画・準備することを「場の設定」と呼ぶこととする。

体育の場の設定を行う際、特に留意すべきことの1つは、安心・安全の確保であろう。大きなけがや事故が起きない授業を組み立てることは、体育学習の大前提といえる。そのうえで、紀村(2024)は、子どもは安心できると「よし、やってみよう!」と挑戦意欲が刺激され、安全を確認できると「思い切り挑戦してみよう!」と行動意欲が高まると説明し、計画段階から子どもが安心・安全に体育学習に取り組むことができる場を考えることの重要性を主張している<sup>3)</sup>。また、白旗(2012)は、子どもの課題に合った場が用意されており、なおかつ、子どもの欲求に応じてその場の変更が可能であることは、子どもの主体的な学習を促すと指摘する<sup>4)</sup>。つまり、体育の場は、固定されるものではなく変動すべきものであると捉えられる。そこで、本稿では、子どもの実態や願いに応じて学習中または学習後に教師や子どもが場の設定を更新することを「場の工夫」と呼ぶこととする。

場…子どもが学習する場や空間などの環境 場の設定…学習前に教師が事前に場を計画・準備すること 場の工夫…子どもの実態や願いに応じて学習中または学習後に教師や子どもが場の設定を更新すること
---

図1 本稿における場に関する言葉の捉え

ところで、幼稚園教育の基本について、文部科学省(2017)は、幼稚園教育要領第1章総則において次のように述べている<sup>5)</sup>。

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、学校教育法に規定する目的及び目標を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。このため教師は、…(省略)…幼児と共によりよい <u>教育環境を創造する</u> ように努めるものとする。
--

図2 幼稚園教育の基本(下線は筆者による)

下線部には共通して「環境」という言葉が記載されている。これは、幼児期は大人から一方的に知識や技能を与えられて学ぶ時期ではなく、幼児が興味や関心をもち環境に自ら関わっていく中で、自分なりに感じたり、気付いたり、試行錯誤を繰り返したりして、様々なことを自分なりのペースやリズムで学んでいくことを期待するためである<sup>6)</sup>。つまり、幼児の実態や興味・関心、教師の思いなどを踏まえて、教師は意図的・計画的に場を設定したり工夫したりすることが期待されるのである。そして、このような考え方は幼児期を終えた学童期、特に小学校低学年においても重要視されている。

小学校における体育の内容は、運動領域と保健領域から構成され、発達の段階を踏まえて表1のように示されている。

表1 小学校体育の内容構成<sup>7)</sup>

学年	1・2	3・4	5・6
領域	体づくりの運動遊び	体づくり運動	
	器械・器具を使っての運動遊び	器械運動	
	走・跳の運動遊び	走・跳の運動	陸上運動
	水遊び	水泳	
	ゲーム		ボール運動
	表現リズム遊び	表現運動	
		保健	

ここで注目したいことは、各領域の名称が学年に応じて変わる中、低学年（第1学年及び第2学年）は「運動遊び」として示されていることである。この意図について文部科学省（2018）は、児童が易しい運動に出会い、伸び伸びと体を動かす楽しさや心地よさを味わう遊びであることを強調したもので、入学後の児童が就学前の運動遊びの経験を引継ぎ、小学校での様々な運動遊びに親しむことをねらいとしていると述べている<sup>7)</sup>。「就学前の運動遊び」とはつまり、「幼児期の運動遊び」を指すことから、小学校低学年においても意図的・計画的に場を設定したり工夫したりすることが教師に期待されていると解釈することができる。そこで、本稿では、小学校入学直後の1年生に着目することとした。

場の設定に関して、例えば、副読本「わたしたちのたいいく」<sup>8)</sup>では、教師や子どもたちがイメージしやすいように、イラストを多用して様々な運動遊びの場が紹介されている（図3）。また、場の工夫に関して、例えば、小学校第2学年の体ほぐしの運動<sup>注1)</sup>において、コース上にいろいろな運動遊びを用意し、子どもがサーキット形式でいろいろな運動遊びを連続して行う方法が紹介されて



図3 わたしたちのたいいく1年（ゲーム領域）

いる<sup>9)</sup>。しかし、実際に子どもたちがどのように運動遊びに取り組み、どのような意図で教師や子どもが場を工夫し、子どもの学習意欲がどのように変容したかを整理した実践研究は少ない。そこで、本稿では、場の工夫と体育の学習意欲との関連について知見を得ることを目的とする。

## 2. 研究方法

調査対象は、X小学校1年生30名（男子14名、女子16名）、Y小学校1年生30名（男子16名、女子14名）であった。

X小学校では、2018年に「とびっこ遊び（走・跳の運動遊び）」の実践を行った。また、Y小学校では、2021年に「的当てゲーム（ゲーム）」、「多様な動きをつくる運動遊び（体づくりの運動遊び）」の実践を行った。

各実践における「場の設定」、「子どもの実態や願い」、「場の工夫」、「学習意欲の変容」、「運動遊びの楽しさ」の5点について、実際の子どもの姿を根拠として考察する。その際、「運動遊びの楽しさ」については、実践前と実践後についてそれぞれ1～5点（3点が「ふつう」で、得点が高い程、運動遊びが楽しかったことを示す）で回答する質問紙調査を実施した。なお、学級の平均値を算出する際は1/10単位とし、1/10未満は切り捨てた。

倫理的配慮として、実践及び質問紙調査前に、研究の主旨及び方法、個人名が特定されないこと、研究協力者にもたらされる利益・不利益が生じないことを研究協力者に対して口頭にて説明し、同意が得られた子どもに実施した。

## 3. 結果及び考察

### 1) 実践①「とびっこ遊び（跳の運動遊び）」における子どもの学びの実際

本実践では、子どもが「前方や上方に跳んだり、連続して跳んだりすること」（文部科学省、2018, p. 51）ができるように、様々な場を準備した。すると、遊んでみたい場を選び夢中になって跳の運動遊びに取り組んだり、スタートとゴールの位置を設定して友達と速さを競い合ったりする子どもの姿が見られた。

遊び始めて10分間が経過したとき、A児が「先生、オレンジ色の台<sup>注2)</sup>を動かしてもいいですか？」と発言した。そこで筆者は「どうして動かしたいの？」と尋ねた。するとA児は「そうしたらもっと楽しくなりそうだから」と発言し、周りにいた子どもたちも「それ、いいね」と言ってA児に共感した。このA児の発言をきっかけに、場を工夫しようとする子どもが多く現れた。

例えば、A児は、台を複数個並べ、高い位置を移動した後に前方へ跳んで着地する場をつくって跳の運動遊びに取り組んだ。また、B児は、着地する場所にケンステップ（図4）を置き、ケンステップの中に着地する場をつくって跳の運動遊びに取り組んだ。

場を工夫した結果、A児は、台を複数個並べた高い位置を、バランスをとりながら移動したり、これまで以上に前方や上方に跳んだり、連続して跳んだりしながら跳の運動遊びに取り組む姿が見られた（図5）。また、B児は、ケンステップの中に着地して3秒静止するというルールを考え、友達と着地の精度を見せ合う姿が見られた。

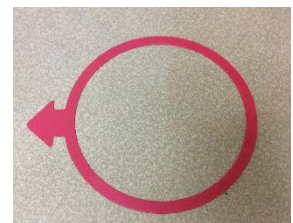


図4 ケンステップ



図5 A児の学びの姿



図6 C児が提案した場の工夫

さらに、C児は、体育館での体育の学習前にはいつも体育館を3周走ることを思い出し、「走るコースにオレンジの台とかマットとか置いてみたい」と提案した。C児の提案に対して多くの子どもが「おもしろそう」と反応したため、その後の体育館を走る活動の場の工夫に生かされた(図6)。

運動遊びの楽しさに関する学級の平均値は、実践前が4.1点、実践後が4.5点であり、実践後に0.4点得点が上昇した。

## 2) 実践②「的当てゲーム(ゲーム)」における子どもの学びの実際

本実践では、子どもが「簡単なボール操作と攻めや守りの動きによって、易しいゲームをすること」(文部科学省, 2018, p. 58)ができるように、予め四角形のコートを用意した。なお、本実践における「的」は「子ども」,「簡単なボール操作」は「転がす」,「攻めの動き」は「ボールを転がす」,「守りの動き」は「ボールを避ける」であった。子どもの動きを観察すると、できるだけ速くボールを転がしたり、できるだけボールを持った相手チームの子どもから離れた位置に移動したりしながら的当てゲームを楽しむ姿が見られた。

1回目のゲームを終えて学級全体で、的当てゲームに取り組んだ感想を共有する時間を設定した。するとD児が「算数で勉強した四角の中に入って遊んで楽しかった」と発言した。続けてE児は「それなら丸もあった方がいい」と発言し、F児も「三角もつくれるかも」と発言した。これらの発言をきっかけに、「コートの形を変えてみたい」という願いをもつ子どもが多く現れた。

そこで、筆者は円形のコートと、やや面積の狭い三角形のコートをつくり、四角形のコートを含めた3つの中から好きなコートを選んで的当てゲームをするように促した。

その結果、コートに形に応じて攻めや守りの動きを工夫する子どもの姿が見られた。例えば、円形のコートを選んだGチームは、どの方向からボールが転がってきても避けやすいように、メンバー全員が円の中心に集まって守る動きをした。また、ボールを転がすことに苦手意識をもっているメンバーが多いHチームは、相手チームのメンバーにボールを当てやすくするために面積の狭い三角形のコートを選んで意欲的に攻める工夫が見られた。

運動遊びの楽しさに関する学級の平均値は、実践前が4.0点、実践後が4.6点であり、実践後に0.6点得点が上昇した。





図7 場の工夫と攻守の動きの工夫（左から四角形，円形，三角形のコート）

### 3) 実践③「多様な動きをつくる運動遊び（体づくりの運動遊び）」における子どもの学びの実際

本実践では、子どもが「体のバランスをとる動き，体を移動する動き，用具を操作する動き，力試しの動きをすること」（文部科学省，2018，p. 39）ができるように，バランス遊び，移動遊び，用具操作遊び，力試し遊びの4つの場を準備し，子どもが自由に遊び場を選んで多様な運動遊びに取り組む時間を設定した．するとI児は「楽しそうだから後ろ向きに進むスキップをやってみたい」と発言し，遊び方を工夫しながら移動遊びに取り組む姿が見られた．また，J児は「私はバランスを鍛えたい」と発言し，「ジャンピングフラミンゴ」<sup>注3)</sup>に取り組む姿が見られた．

学習の終末場面で，多様な動きをつくる運動遊びに取り組んだ感想を共有する時間を設定した．するとJ児が「教室でもやりたい」と発言し，周りにいた子どもたちもJ児の提案に賛同した．そこで筆者は「どの運動遊びなら教室でもできそう?」と尋ねた．するとJ児は「リズムジャンプ」<sup>注4)</sup>と発言した．さらにK児は「私は体がかたいから，朝に教室で柔軟運動をやってみたい」と提案し，数名の子どもが「私もやりたい」と発言した．

その結果，安全面に配慮した手軽な運動遊びに取り組むことができる場が教室内につくられ，体育の学習時間以外でも意欲的に運動遊びに親しむ子どもが現れた．

本実践では，運動遊びの楽しさに関する質問紙調査は実施しなかった．代わりに，教室内で運動遊びを行うようになってから1カ月が経過した頃，教室内で運動遊びに取り組んだ感想を子どもたちに尋ねた．するとL児は「体育の授業以外でも運動できるから楽しい」と発言した．また，K児は「いっぱい柔軟運動ができるから，前より体が柔らかくなって体育が好きになった」と発言した．



図8 教室でリズムジャンプをする子ども



図9 教室で柔軟運動をする子ども

これらのことから、場の工夫には、「何を行うか」だけでなく、「どこで行うか」という視点も含まれることが分かった。

#### 4. まとめと今後の課題

ここまでの考察を踏まえ、場の工夫と体育の学習意欲との関連について以下に2点整理する。

1点目は、子どもが場を工夫することは、子どもの学習意欲を高めることにつながるということである。実践①では、台を複数個並べたり床にケンステップを設置したりするという場の工夫をしたことで、子どものバランス機能や仲間との競争意識が高まり、場を工夫する前と比べて意欲的に学習に取り組む子どもの姿が見られた。また、実践②では、コート の形を円形や三角形に変えるという場の工夫をしたことで、子どもが意図的に攻守の動きや攻め方を考えるようになり、場を工夫する前と比べて意欲的に学習に取り組む子どもの姿が見られた。その結果、どちらの実践においても、運動遊びの楽しさに関する学級の平均値が上昇した。

2点目は、場を工夫することは、場の「内容」だけでなく「場所」も含むということである。実践③では、子どもの発言をもとに、通常は体育館で行う運動遊びを、安全面と内容を考慮したうえで教室でも行うことができるようにした。その結果、体育の学習時間以外でも運動遊びに取り組む時間が増え、意欲的に運動遊びに取り組む中で、運動する楽しさや運動機能の高まりを実感する子どもが現れた。

今後は、他の学年や他の運動領域での実践を重ね、場を工夫することの具体的な内容やその効果について明らかにしたい。

#### 注

- 1) 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編」以降は、低学年では「体ほぐしの運動遊び」という名称となったが、それまでは「体ほぐしの運動」という名称であった。
- 2) 柔らかい素材の幅80×長さ60×高さ60 cmの直方体。
- 3) 上方に跳び、片足で着地して静止するバランス遊び。
- 4) その場で1回だけジャンプして、仲間が指定した方向（教室前方→1、廊下側→2、教室後方→3、窓側→4）を向く移動遊び。

#### 引用・参考文献

- 1) 鈴木聡／橋本美保・田中智志監修／松田恵示・鈴木秀人編著（2016）『教科教育学シリーズ⑥ 体育科教育』、一藝社、p. 52.
- 2) 鈴木直樹編著（2021）『主体的・対話的で深い学びをつくる！教師と子どものための体育の「教科書」低学年』、明治図書、p. 16.
- 3) 細恵子・中島義和・紀村修一（2024）学級づくりの工夫のたからばこ 教師としての信念・ビリーフをかたちにして、溪水社、p. 61.
- 4) 白旗和也（2012）『これだけは知っておきたい「体育」の基本』、東洋館出版社、p. 154.
- 5) 文部科学省（2017）『幼稚園教育要領（平成29年告示）』、フレーベル館、p. 5.
- 6) 津金美智子（2017）『平成29年版 新幼稚園教育要領ポイント総整理 幼稚園』、東洋館出版社、p. 24.
- 7) 文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編』、東洋館出版社、pp. 24-25.
- 8) 成田十次郎監修／中・四国小学校体育連盟編集（2021）『わたしたちのたいいく1年』、文教社、pp. 32-33.
- 9) 白旗和也編著（2016）『小学校体育 これだけは知っておきたい「低学年指導」の基本』、東洋館出版社、p. 82.